

平成21年度第1回千葉県スポーツ振興審議会 会議録

平成21年7月22日(水)

午後2時00分～午後3時50分

於 千葉県総合スポーツセンター

スポーツ科学センター第2,第3研修室

<出席委員> (敬称略50音順)

相川 堅治	青木 寛	荒井のり子	荒川 昇	浦井 孝夫
佐藤喜美子	篠田 哲彦	谷藤 千香	西村 清	藤見 昌弘
蒔田 実	牧野由美枝	森 和美	柳川 尚子	

<出席事務局職員>

教育委員会教育長	鬼澤 佳弘
教育振興部体育課長	佐久間嘉宏
主幹兼学校体育室長	北田 昭雄
主幹兼スポーツ振興室長	越川 均
学校体育室調整担当主査	東端 利樹
指導主事	嶋田 武彦
指導主事	向後 依明
スポーツ振興室主任指導主事	石見 涼二
主任指導主事	栗原 政賢
指導主事	佐藤 道広
指導主事	加瀬 宏
指導主事	北林 栄峰
指導主事	齊藤 隆作
指導主事	伊藤 忠幸
副主査	倉持美恵子

国体・全国障害者スポーツ大会局

大会総務課長	石井 利夫
副主幹	伊藤 政利

< 次 第 >

- 1 開 会
- 2 委員紹介
- 3 挨拶
- 4 議 事
- 5 閉 会

< 議 事 >

○ 報告事項 1

「平成 21 年度体育課予算概要」について

(体育課長)

平成 21 年度予算について説明いたします。体育課としての当初予算は、体育振興費と体育施設費の 2 項目があり、合わせて 40 億 4,275 万 6 千円となっております。

当初予算については、知事選を控えていたことから「骨格予算」として編成され、6 月補正予算において「知事の Manifesto への対応」及び「国の経済危機対策」として 2 億 2,500 万円の増額となりました。当初予算との合計は、42 億 6,775 万 6 千円となっております。それでは主な項目につきまして説明いたします。

まず、体育振興費ですが、当初予算は 33 億 4,935 万円です。主なものは、社会体育指導費に、仮称スポレク健康スクエア用地取得時にかかった県債償還金 28 億 5,028 万 3 千円を計上いたしました。国民体育大会費 1 億 2,700 万円は、新潟県で開催される第 64 回国民体育大会への派遣経費などがございます。

競技力向上費ですが、6 月補正予算で 7,000 万円を増額し、合計 2 億 5,000 万円となりました。2010 年に本県で開催されます「ゆめ半島千葉国体」に向け、指導者の養成やチームちばジュニア選手強化の推進経費などがございます。スポーツ振興諸費 5,255 万 4 千円は、国際千葉駅伝開催及び千葉県体育協会事業補助金でございました。

最後に、体育施設費の当初予算は 6 億 9,340 万 6 千円で、主なものは総合スポーツセンターの施設整備費並びに指定管理者による総合スポーツセンター及び国際総合水泳場の管理費などがございます。また、6 月補正予算において、1 億 5,500 万円の増額となりました。

内容としましては、総合スポーツセンター及び国際総合水泳場の施設・設備の改修工事でございます。

以上で、平成 21 年度体育課予算概要についての説明を終わります。

【質問等】

委員 スポレク健康スクエア用地の償還は、確か来年まででしたね。

事務局 はい、平成 22 年で終了となります。

○ 報告事項 2

「平成 21 年度千葉県体育・スポーツ振興計画関連事業の予算概要」について

(体育課長)

「体育・スポーツ振興計画」の各戦略及び取組に関連する平成 21 年度の各関係課等事業予算の概要について報告いたします。

はじめに、「子どもたちの生涯にわたる健康とスポーツ環境を拡大する戦略」では、体育課と学校安全保健課の事業により、予算は、4,435 万 3 千円となっております。このうち、「いきいきちばっ子健康・体力づくり推進事業」が、94 万 5 千円、「食育を推進する」取組の「いきいきちばっ子ノート」作成事業として、945 万円などがございます。

次に、「県民の健康・活力を高める戦略」は、健康福祉部の健康づくり支援課・高齢者福祉課・障害福祉課の関連事業により、2 億 7,535 万 3 千円の予算となっております。ここでは、「高齢者の健康づくりや介護予防を普及する」取組として、我孫子市に建設した「福祉ふれあ

いプラザ運営費」8,900万円などがございます。

次に、「地域のスポーツ環境を整備する戦略」は、2億7,124万8千円となっております。「地域の実情に応じた地域スポーツを振興する」取組として、総合型地域スポーツクラブ育成・定着支援事業に、122万4千円、「県民のニーズに応える公共スポーツ施設を整備する」取組では、施設維持修理費及び整備費として、2億5,887万5千円の予算が組まれています。

「ちばの競技力を育てる戦略」の予算について、「戦略的な競技力を向上させるための競技力向上推進本部事業」は、当初予算の1億8,000万円に、補正で7,000万円上乘せしていただき、合計2億5,000万円となりました。これは、来年に本県で開催されます「ゆめ半島千葉国体」での男女総合優勝を目指し、国体選手の強化をはじめ指導者の養成、競技力向上のための環境整備等の推進経費でございます。「『人づくり』『地域づくり』を重視したスポーツの普及」のための予算1億2,635万5千円は、国民体育大会関東ブロック大会（第64回トキメキ新潟国体の予選会）が、本年の8月を中心会期として千葉県で開催されることによる事業費及び新潟国体も含めた選手・監督の派遣費等でございます。「国際交流やトップレベルの選手と県民の交流を推進する」1,600万円については、国際千葉駅伝を11月23日（日）に千葉市内を中心に開催するための経費でございます。

最後に、「第65回国民体育大会・第10回全国障害者スポーツ大会を成功させる戦略」では、国体・全国障害者スポーツ大会局及び障害福祉課事業として、11億4,701万円の予算となっております。

以上で、平成21年度「体育・スポーツ振興計画」関連事業予算概要についての報告といたします。

【質問等】

委員 戦略2の「県民の健康・活力を高める」という事業は、昔は「スポーツ振興審議会」の中の対象になかったが、今後もこれは入れておくのか。

事務局 現在の「千葉県体育・スポーツ振興計画」は平成23年度までの5カ年の計画であり、今後の「千葉県体育・スポーツ振興計画」については、今、県や教育委員会において戦略ビジョンをベースとした新しい計画を策定する予定になっております。それを見ながら、今後対応していきたいと考えています。

委員 かつてのスポーツ振興計画は、体育課オンリーの計画だった。県全体の方針からだろうが、関連する事業の所管課すべてを、ここに入れ込んだというのはどうしてか。

事務局 この計画は、平成18年度に策定されたものであり、その時に教育委員会だけでなく、関連するする部局も関係する事業等も織り込むという方向性が示され、その中でこの振興計画は作成されました。

委員 私は、そういう方向でよいと思う。

委員 国体局からは総務課長が出席しているが、他の学校安全保健課や福祉課等においても課長に出席してもらったほうがよいのか、あるいはこれはあくまで体育課が所管する事業に関する審議会だから資料としてみておくだけでよいのか、両面考えられる。

事務局 今回の会議資料を含めて、資料については関係各課で作成してもらっています。

委員 課長でなくても、主幹とか係長とかに来てもらったほうがよいのではないかと。

事務局 このことについては、今後そういうことも含めて検討していきたいと思います。

委員 今般、大変な新型インフルエンザが流行いたしました。インターハイの予選において、その流行による対応にせまられ、秋にもまた大会を控えており、また流行することが考えられる。体育課として、いくつか想定されるケースについて、何らかの対策を講じ、選手を守ってあげることが必要ではないか。今後、その対策のための予算化についても考慮していただきたい。

事務局 そのことに関連する具体的事業としては、この振興計画の内容には組み入れられていませんが、知事部局と教育委員会とが連携しながら、現在対応しております。特に、教育委員会においては、先だってガイドラインを作成し、学校及び関係機関等に配布したところです。

委員 県全体の学校を閉鎖するという事は、千葉県では行なわなかったが、そのように閉鎖しないで、県民全体を守ることを考えるべきだと思う。

密集した家屋で剣道やバレーボールをする状況において、若い人が感染しやすいという認識は持っているが、それは、保健所が対応していくからいいというのは、少々配慮に欠けているのではないか。

委員 全国高体連からも、新型インフルエンザの対応については通知がきている。それに合わせて、県高校体育連盟としても、自衛手段について強く意識を持つよう通知するなど、関東大会開催に向けて対応しているところである。

委員 県として、これに対する予算の対応は特に考えていないか、

事務局 今後の状況（大発生など）に応じて対応していくことになると思います。

○ 協議事項

「千葉県体育・スポーツ振興計画に関する事業の取組」について

(体育課長)

それでは、ご説明申し上げます。

新しく委員になられた方もおられますので、「千葉県体育・スポーツ振興計画」について、簡単に説明いたします。この「千葉県体育・スポーツ振興計画」は、平成19年3月に5カ年間の計画として策定されました。その計画を元に、県では県民の健康づくりや運動の習慣化等に関する様々な事業を推進し、今年で3年目を迎えます。

「千葉県体育・スポーツ振興計画」は、基本理念である『スポーツや健康づくりの運動を習慣化し自分の健康は自分で守る活力ある県民を増やす』ということに基づき、その達成に向けて、5つの項目を戦略として定めました。

1つ目が「子どもたちの生涯にわたる健康とスポーツ環境を拡大する戦略」、2つ目が「県民の健康・活力を高める戦略」、3つ目が、「地域のスポーツ環境を整備する戦略」、4つ目が「ちばの競技力を育てる戦略」、5つ目が、「第65回国民体育大会・第10回全国障害者スポーツ大会を成功させる戦略」であります。そして、それぞれの戦略に基づき、具体的な取組が示されています。

さて今回は、その各戦略に基づく具体的な取組の中の、「戦略1」に関わる「遊・友ランキン

グちば」と「体育の授業マイスター認定事業」、「戦略3」に関わる「広域スポーツセンター事業」及び「総合型地域スポーツクラブ」、「戦略4」に関わる「競技力向上推進本部事業」について、特にご協議ご意見を賜りたいと存じます。

また、今回は、各市町村における関連する事業の取組について、資料提供を依頼し、それを「各市町村における関連する事業の取組」（別添資料）としてまとめました。併せてご覧いただき、後ほどの協議において感想やご意見を伺いたいと存じます。

県が推進している事業に関連する地域の取組について把握することは今後の事業計画及び方針等の参考としていきたいと考えます。

それでは、まず最初に「子どもたちの生涯にわたる健康とスポーツ環境を拡大する戦略」の「遊・友スポーツランキングちば」について説明いたします。

本事業は、児童生徒の体力向上と社会性の育成を目的として平成19年度より実施しているものです。各学校で、子どもたちがクラスやグループで、7つの運動種目に取り組んだ記録を取りまとめ、HP上に公表するとともに、取組の優れた学校へ「学校賞」や「記録認定書」を授与するなどして、事業の拡大に努めています。

昨年度は、延べ374校が参加し15,850件の記録申請がありました。これは平成19年度と比較すると、延べ参加校で20%増、記録申請総数で約2倍となり、参加状況が大幅な伸びを見せました。また、本年度前期分（4月から6月）の結果が集約され、延べ156校が参加し、4,209件の記録申請がありました。7月7日（火）には佐倉市立印南小学校で表彰式が行われ、同校に「遊・友スポーツランキングちば大賞」が授与されました。

今後も、研修会や会議等、様々な機会において事業内容のPRに努めるとともに、各学校にPR用ポスターを配布するなど、より一層コンテストの趣旨周知を図り、学校の実態に応じて時間を確保するとともに、継続的に取組む学校をさらに増加させたいと考えております。そして、外遊びや運動の機会を増加させ、運動好きな児童・生徒の育成に努めてまいります。

以上で、いきいきちばっ子コンテスト「遊・友スポーツランキングちば」についての説明を終わります。

次に、「体育の授業マイスター認定事業」について説明いたします。

本事業は、体育の授業において優れた指導力を有している教員を「体育の授業マイスター」として認定し、授業公開やその指導技術を、写真やDVD等に収め活用したり、近隣校の体育授業の支援をするなど、県下の小学校体育授業の改善に役立てるものです。本年度は11名のマイスターを認定し、9月末をめぐりに各マイスターの授業をDVDに収録し10月以降、各市町村教育委員会を通して各学校に貸し出しをしながら、活用を図ってまいります。

次に、今回の協議事項には入れていませんが「県民の健康・活力を高める」戦略2について、健康福祉部の健康づくり支援課をはじめ、高齢者福祉課や障害福祉課の21年度の主な事業とそれに関わる市町村の事業の取組等についてまとめてあります。後ほど資料をごらんの上、ご質問等ありましたら協議の中で伺いたいと存じます。

次に「地域のスポーツ環境を整備する戦略」の「地域の実情に応じた地域スポーツを振興する」取組みの中の「広域スポーツセンター事業」と「総合型地域スポーツクラブの育成・支援」について説明いたします。

平成21年度より、千葉県総合スポーツセンターの指定管理者制度の導入に伴い、県教育庁教育振興部体育課に「千葉県広域スポーツセンター」が移設されました。これに伴い体育課事業との連携を図りながら大きく3つの事業を展開しております。

1つ目は、未設置市町村に対する事業です。これは主に市町村社会体育担当主管課への訪問による設立支援と、研修会開催による地域スポーツ団体等への啓発及び設立に必要な人材育成の支援を行っております。2つ目は、設立済みの総合型地域スポーツクラブに対する支援事業です。これは、クラブマネージャーや指導者の育成と、総合型地域スポーツクラブ間の情報交換に寄与する事業です。体育課の「スポーツ指導者育成事業」とも連携を図り、広く指導者の育成を推進します。3つ目は、情報提供事業です。県内総合型地域スポーツクラブの活動紹介や

助成事業に関する情報等、クラブの設立・運営に関する情報を発信します。今年度は、教育委員会広報「県教委ニュース」の中でも、総合型地域スポーツクラブの活動紹介を連載しております。

次に、総合型地域スポーツクラブの育成・定着について説明いたします。

平成20年度に3クラブ、平成21年度に入って2クラブが設立され、平成21年6月末現在で、設立クラブ数は47クラブとなっております。今年度末までに設立予定のクラブは8クラブであります。

続いて設立市町村についてですが、現在、設立市町村数は24市町（23市1町）となっており、全市町村中の割合は、42.9%です。なお、32ある未設置市町村の内、2市が平成21年度末の設立に向けて準備中であります。この2市に設立した場合、全市町村中の割合は46.4%となります。

最後に、育成・支援に関する課題と平成21年度の重点施策についてですが、昨年度（平成20年度）の課題より、未設置市町村の地域が固定してきていることや設立後のクラブへの具体的な支援に関することが挙げられます。そのことを踏まえ、平成21年度は未育成市町村への設立支援に重点を置き、千葉県広域スポーツセンター事業において、設立までの具体的なプランを提示し、特に訪問事業を継続的に行い、クラブ設立に向けて県体育協会との連携を図りながら、設立支援事業を展開してまいります。

委員の皆様もご存知のとおり、国は平成22年度までに、市町村に1つ以上の総合型地域スポーツクラブの設立を目標として掲げております。目標期限まであと2年と迫っており、千葉県においても未設置市町村に対し、1つでも多くの設立が進むように支援を行ってまいります。

以上で、戦略3に関わる事業の説明を終わります。

最後に、ちばの競技力を育てる戦略から「競技力向上推進本部事業」の取組について説明いたします。はじめに、昨年度の事業について報告いたします。

昨年は平成22年を目標年度とした、平成14年からの3年ごとのスパンの「準備期」「育成・充実期」「躍進期」のうち「躍進期」1年目でありました。

次に、「指導者の養成・確保」については、平成18年度までは講習会への派遣等に力を入れてまいりましたが、平成19年度以降は、本県国体後も継続的に行う講習会の開催のみにとどめ、事業としては縮小しています。さらに、「競技力向上のための環境整備」の「競技用具等の整備事業」では、セーリング競技で使用する「艇」の購入や、山岳競技の練習拠点となる県立幕張総合高校のクライミングウォールの設置及びメンテナンス費用等に充当しました。また、「県民への広報活動事業」については、推進本部広報「躍進！チームちば」を2回作成しました。特に国体成績を特集した号は好評で、配付した競技団体や国体会場地の実行委員会から追加希望が寄せられました。その他広報活動では「チームちば」が頑張る姿や思いを広報誌・新聞・ラジオ・テレビ・教育委員会ホームページ等で発信いたしました。

「スポーツ医科学の積極的な活用」ですが、「スポーツ選手医科学相談事業」の能力測定実施およびトレーナー派遣が伸びております。

次に、国民体育大会の成績について説明いたします。

過去5年間の成績の推移ですが、第60回の岡山国体以後順調に成績を伸ばし、第62回秋田国体では22年ぶりの総合8位入賞、そして昨年度の第63回大分国体では、6位入賞へと成績が向上しています。種別毎の推移では、成年種別は安定した力を維持しています。注目したいのは少年種別の向上で、大分国体では男子が15位から10位へ、女子も16位から9位へと向上しております。少年種別日本一に向け、今年・来年と更に強化を図って参ります。

続きまして、チームちばジュニア強化事業実施状況評価について説明いたします。

平成19年度の評価については、昨年 の審議会 で説明 しました ので、概略のみ説明 いたし ます。資料 にあり ますレーダーチャート で示した結果 では、9項目 で基準 の3を 超える結果 となっ ており ます。昨年 と比較 しますと、各項目 とも平均0.3ポイント ずつ向上 していま す。この 結果につ きまして は、今後さら に、評価5に 近づく様 に努力 してまい ります。

次に、平成21年度の事業計画について、説明いたします。

昨年度に引き続き、6つの基本施策に基づき、各事業を推進してまいります。中でも「選手の育成・強化」のうち「チームちばジュニア強化事業」と「国体選手強化・サポート事業」に補正で増額していただいた多くを充当し、強化練習会や強化合宿、強豪チームを招聘しての強化練習会の充実に加え、特に千葉国体の会場地を活用した強化練習会を増やしていきたいと考えております。「スポーツ推進団体指定事業」は予算の増額を、「競技力向上推進校指定事業」では、指定校5校（5部活動）を追加いたしました。

「指導者の養成・確保」と「競技力向上のための環境整備」は、昨年とほぼ同様ですが、「県民への広報活動事業」については、リーフレットの増刷等を予定しております。

「スポーツ医科学の積極的な活用」では、昨年の反省からチームちばジュニア強化事業で行う合宿等でのトレーナーの積極的な派遣や、関東ブロック大会へのドクター・トレーナー派遣などを計画しております。

「組織の拡充・強化」では、ジュニアの強化が進み、その選手達がやがて指導者となり地元千葉県に貢献するよう千葉国体後も恒久的に選手強化が進む組織体制づくりを進めます。

「調査・研究」では、インターハイ等の視察を通じてライバル県の戦力分析を徹底して行います。

最後に、今年本県で開催される国体関東ブロック大会の競技日程及び会場について資料をつけてありますのでご参照ください。

以上で説明を終わります。

協議1

★ 戦略1について

委員 「体育の授業マイスター認定事業」は、千葉県独自の事業か、それとも他県でも同じようなことをやっているところがあるのか。

また、この事業は小学校のみだが小学校以外では考えられないか。さらに体育の教科以外ではこういう事業はないのか。

マイスターに認定された教師には何かメリットはあるのか。

事務局 調査はしていないが、秋田県でもこのようなことをやっていると聴いている。本県では小学校の体育の教師を対象としているが、小学校の初任の教師にアンケートをとったところ体育の授業が苦手と答えた教師が58%であった。その結果を受け、体育指導に優れた教師によって、体育の授業に自信を持って取組める教師を育て、授業改善に役立てていくことを目指して始めました。授業参観の参加者数やDVDの活用状況を見ながら、今後、基本的には小学校の授業改善を前提として行っていきます。体育教科以外の教科については、理科の実験とか技能教科においては関連することもあるので関係各課に情報として流すなどしていきたい。中学校及び高校については、免許を持った専門の教師がおり、また、各教育事務所に教科専門の指導主事もいるので特に考えていません。マイスターに認定された教師には体育主任会議で県教育委員会の認定証を授与している。認定証を授与すること以外の給与等における特別な処遇等についてはありません。

委員 今、小学校の教員の採用が非常に増え、新採の教員が多くなってきており、マイスター事業の活用は多いのではないかと思うが、7月17日までで、どのくらい活用があったか、わかっていれば教えてほしい。

事務局 活用状況については、3ヶ月毎に報告してもらうことになっているが、実際、今広報をしている状況であり、DVDも10月頃をめぐりに貸し出しをスタートするという段階であります。したがって、次回の審議会では報告できると思います。

委員 マイスターの認定者は、すべて男性だが、やはり女性は体育の授業が苦手なのだろうか。

事務局 各学校の校長より推薦された教師を、各市町村教育委員会及び各教育事務所を通して候補としてあげてもらい、県の選考委員会を経て認定している。今回の認定に際しては、学校からの推薦及び候補者自体に女性が含まれていませんでした。

委員 小学校は女性の教員が多い。おそらく体育の授業が苦手なのも女性の方が多いのだろう。DVDを見てほしいターゲットに親しみやすく自分でもできそうだと思うてもらえるためにも、次回以降意識的に女性のマイスターの授業を取り上げたほうが良いように思う。

委員 マイスター認定者は、小学校体育のすべての種目におけるマイスターなのか。跳び箱とかマットとかそういう特定の分野における卓越した教員ということではないのか。

事務局 指導用DVD等においては、体育の6領域を低学年、中学年、高学年という種分けの中で作成しています。

委員 体育の授業は、学校教育の中心なので、私は大変良い事業だと思います。気になるのは、体育の授業が苦手な教師が多いということである。小学校教員の採用試験において実技はどう採用に関わっているのか。この際、この資料を基にして実技を充実させ、実技の結果を採用に反映するようにしてほしい。

事務局 関係課に、伺ったことについて伝えていきたい。

協議2

★ 戦略2について

委員 広域スポーツセンターと県体育協会とがお互いに連携・協力して進めているようだが、どのような役割分担なのか。

事務局 体育協会には、総合型地域スポーツクラブ育成支援アドバイザーが2名おり、県とタイアップして、各広域ブロックでの研修会の開催及び指導者養成や設立のための訪問事業等を共同で行っています。

千葉県広域スポーツセンター事業としては、指導者養成講習会や市町村担当者研修会及び設立されたクラブを支援する事業である情報交換会「クラブサミット」の開催などがあります。

委員 体育協会には、総合型地域スポーツクラブの育成委員会という組織があり、体育課の職員と体育協会の育成アドバイザーがその委員となっており、千葉県として総合型地域スポーツクラブをどう育てていくか、どこに問題点があるか、などの課題にお互

いに協働し合って取組んでいる。今のところ、連携・協力はうまくできている。

委員 千葉県の場合、まだ設立していない市町村が半分以上もあるようだが、一律に浅く支援を行うのではなく、設立の難しいところはあきらめて、設立できそうなところを重点的に行う方が良いのではないか。目標とする年度までに全部の市町村に設立するのは難しいような感じがする。

委員 今は、既にクラブができている市町村にも、さらにクラブを立ち上げていくこと、未だにクラブが全くない市町村には、まず最低1つのクラブの立ち上げていくこと、この両面について、育成支援のための訪問事業を重点的に行っています。何とか県内全市町村における設立市町村の割合を50%までもっていきたいと考えています。

設立クラブの総数だけで見ると千葉県は全国の中の一桁順位に位置しているが、空白の市町村数（設立していない市町村）で見ると全国の下位に位置するという現状である。

委員 総合型地域スポーツクラブを設立していくことにおいては、スポーツをする県民が増えるということを最終的な目的としてやっていると思うが、実際に総合型地域スポーツクラブが設立していくことで、新規にスポーツをする人が増加したということ进行调查しませんか。

事務局 現在、47の設立された総合型地域スポーツクラブの会員数等についての統計はとれるが、クラブが増えたからスポーツ人口が増えたという統計を出していくことは難しいと考えます。

委員 新たなスポーツ実施人口が掘り起こされると、「だから、総合型地域スポーツクラブっていいのだな」と推進する説得力が増すのではないか。

事務局 子どもたちから高齢者まで、いろいろなスポーツに幅広く親しむという総合型地域スポーツクラブの目的を多くの人に理解してもらい、今後、千葉県スポーツの振興における課題のひとつとしていろいろと検討していきたい。

委員 総合型地域スポーツクラブの未設置市町村でも、野球など既に多くのクラブを持っており、みんなうまくやってきている。そんな中、総合型地域スポーツクラブが設置されていない市町村に対して、総合型地域スポーツクラブを育成しなさいといわれても、普通のクラブと総合型地域スポーツクラブとの違いが良く理解できてないことも現実としてあるのではないか。そういう状況を、県及び教育委員会は実態としてしっかりつかんでいるのだろうか、そこが問題であると思う。どういうものを設置したら、総合型地域スポーツクラブというものになるのか、よく理解できていないのではないか。

事務局 総合型地域スポーツクラブと、スポーツ団体等で行っているクラブの違いについては、スポーツ団体で行っているクラブは、いわゆるそのひとつのスポーツを楽しむ人たちの集まりであり、総合型地域スポーツクラブは、子どもから高齢者までの多世代で構成され、文化的内容の活動も含んだ多種目にわたって行われるクラブであり、普段あまり運動をしない人など、少しでも多くの人が運動・スポーツに参加できるような仕組みを持つクラブを目指している。

委員 今、おっしゃっていることは、各市町村では既に何らかの形でやっていることだと思う。

委員 確かに、市町村からアンケートをとると、今のクラブで十分活動しているので、改めて総合型地域スポーツクラブを創る必要ないという意見がある。

委員 必要ないということではない。それぞれの市町村においては、普段からやっているものがあるのに、なぜ総合型地域スポーツクラブにこだわり、まだ半分っていないという数値になるのか理解できない。

委員 いかに、行政をはじめ多くの方に総合型地域スポーツクラブについての理解をしてもらうことが重要であるかを私も感じている。

以前は、文部科学省の基本計画に関するこういう事業は行政ルートで行っていた。しかし、現在この事業は日本体育協会に委託事業として行っている。市町村にしてみれば、自分のところが忙しくて、他の団体の事業にまで手が回らない状況であるというのが現実の声としてあがってきている。

事務局 それぞれの地域でいろいろなクラブが実際に活動しています。地域によっては部活動の延長的なクラブや文化的なクラブなど既存するいろいろなクラブがあります。

このいろいろな形で現在既存しているクラブを、それぞれの地域に合わせて同世代から多世代へ、単一種目から多種目へと、地域のコミュニケーションを創っていくという目的を持つ「総合型地域スポーツクラブ」に移行していけるよう各市町村に働きかけていきたいと思えます。

委員 ただ今出てきたいろいろな意見については、この事業がスタートした頃から続いている問題で、お互い考えをぶつけ合って、その市町村に合った特徴のあるクラブを育てていければよいと思えます。

委員 今回、広域スポーツセンター長が体育課長になったということについても、いろいろな面でプラスになると思えます。もっと早くこうすればよかったと思えました。

協議 3

★ 戦略 4 について

委員 国体の成績は、秋田県大会で8位入賞、昨年の大分県大会では6位、このペースでだと今年の新潟は4位ということになると思うのですが、どうなのか。

委員 その鍵を握っているのは、高校生を始めとした少年世代にあると思えます。

県高体連としては、国体のシュミレーションとして、今年千葉県で開催されます関東ブロック大会において、いろいろな競技の特性を生かしながら、そこをできるだけ多く通過することを目標に頑張っていきたいと考えています。

今日ここにちょうどスポーツ振興審議会の委員の方が居られるので、関東ブロック大会を見てみたいという委員の方がいらっしゃれば、見れるような取り計らいをしてもらえると思うのですがどうでしょうか。

事務局 そのように、お取り計らいをしたいと思えます。

お住まいの近くの会場の競技とか、興味のあるスポーツとか、是非見て応援していただきたいと思います。

委員 知事さんもスポーツが大好きなようなので、体育協会の会長でもある知事さんの出番も持てたら良いと思います。

委員 この件に関する体育課の窓口はどこになりますか。

事務局 スポーツ振興室になります。スポーツ振興室長を窓口といたします。

委員 体育課の予算については、施設整備費を除くと国体に関係した競技力向上事業費が大きい。この資料にある競技力向上に関する評価基準を作成したことは大変良いことであると思いますが、この評価基準と国体の成績とは、概ね関連しているといえるのか、事務局としてはどうとらえているのか。

事務局 この評価基準は、ひとつひとつの事業がきちんと推進されていることについて、評価されています。このように間違いなくそれぞれ結果が成果として出ていることを考えると、関連していると私たちは考えています。

委員 競技力向上推進本部は体育課にあるのか。その予算は体育課が直接扱っているのか。

事務局 事務局は体育課にあり、体育課で扱っております。

○ 報告事項3

「第65回国民体育大会・第10回全国障害者スポーツ大会」の開催準備について
(大会総務課長)

日ごろ、ゆめ半島千葉国体、ゆめ半島千葉大会の開催準備にご支援賜り、厚くお礼申しあげます。

はじめに、ゆめ半島千葉国体及びゆめ半島千葉大会の共通準備状況について報告いたします。

ゆめ半島千葉国体は32市町、39競技、77会場で9月25日からの11日間、また、ゆめ半島千葉大会は7市町、13競技、14会場、幕張メッセを入れると15会場で10月23日から3日間にわたり開催されます。

来年秋の両大会開催まで、いよいよ500日を切り、本日(7月22日現在)であと430日となりました。

先日5月13日には、両大会の開催準備組織であるゆめ半島千葉国体・ゆめ半島千葉大会実行委員会の総会を開催し、平成20年度事業報告及び収支決算、平成21年度事業計画及び収支予算の承認をいただいたところです。また同日は、ゆめ半島千葉国体開会500日前にあたることから、これを記念してJR千葉駅前においてカウントダウンボード設置、知事出席のもとに点灯式など「国体開会500日前イベント」を実施いたしました。

「チーバくん募金」については、昨年11月から開始しており、平成21年6月末現在の募金収納額は約610万円となっております。厳しい経済状況の中ではありますが、県民総参加のもとで両大会を成功させるために、引き続き募金活動を奨めてまいります。

広報・県民運動関係については、両大会の開催に向けチーバくんやイメージソングを活用した広報の展開、花いっぱい運動の推進など、開催機運の一層の醸成を図ってまいります。

また、両大会はスポーツの祭典ですが、同時に千葉県の観光資源や農林水産物など「千葉の

魅力」を全国に発信する絶好の機会であることから、「千葉の魅力発信推進本部」と連携してより効果的な広報を進めてまいります。

ボランティアについては、両大会に全国から訪れる選手や観客の皆さんを温かくお迎えするため、受付・案内、会場美化や式典運営などに参加していただける両大会の運営ボランティア（ゆめサポーター）5,000名（国体：1,500名 大会：3,500名）を、平成21年4月から募集を開始しております。6月末現在で289名の登録をいただいております。

今後も県民からの募集を募るとともに、県内の大学や専門学校などに協力依頼をしていく予定です。

次に、ゆめ半島千葉国体関係でございます。企業協賛については昨年4月から募集を開始しており、平成21年6月末現在、協賛金500万円のオフィシャルスポンサーとして5社、物品提供200万円以上のオフィシャルサプライヤーとして6社、物品提供10万円以上の大会協力企業として5社・2団体と契約いたしました。今後も、企業等の皆様の御協力をいただくよう努めてまいります。

文化プログラムについては、国民体育大会がスポーツの振興だけでなく、開催地の地域文化の発信も重要なテーマとなっていることから、千葉県の豊かな風土に育まれた文化を「文化プログラム事業」を通じて全国に発信しようとするものであります。各市町村、各関係機関を通じて募集をしております。

施設整備については、19年度から競技施設の改修を進めておりますが、21年度は9市町10施設に対して改修整備補助をすることとしております。また、開・閉会式会場の整備については、20年度に策定いたしました「開・閉会式会場等整備計画」に基づき、21年度は会場のデザインや仮施設などの「会場整備実施設計」を行うこととしております。

交通輸送については、開・閉会式会場に会場される選手・監督、一般観覧者等を安全かつ確実に輸送するため、バス・鉄道や駐車場等の確保、交通規制等の対策など、各関係機関と協議・調整をしながら「開・閉会式輸送計画」を策定してまいります。

安全対策については、開・閉会式を円滑に運営するため、消防・防災対策、安全対策等の精度を高めるなど、各関係機関と協議・調整をしながら警備・防災の各計画を策定してまいります。宿泊関係では、選手・監督・役員等の宿泊について、会場となる市町を中心に広域的な配宿を合理的に行えるよう、20年度から3年間市町と合同で配宿業務を委託しており21年度は、第2仮配宿の配宿シミュレーションを作成し、配宿の精度を高めてまいります。

競技関係については、競技会運営の習熟を図るとともに、国体への関心を高めることを目的として、競技別リハーサル大会を5月末の「なぎなた競技」を皮切りに、22年6月にかけて、32競技を25市町で開催し、また本大会に向けて各経費の補助事業や競技用具の整備を進めてまいります。

式典関係については、20年度に策定いたしました「開・閉会式式典実施計画」に基づき、21年度は、開・閉会式及び大会旗・炬火リレー等の運営、演出など、より具体的な内容を盛り込んだ「式典実施要項」の策定を進めてまいります。

次に、全国障害者スポーツ大会関係でございます。視覚障害者への情報保障を行う情報支援ボランティア700名を平成21年3月から募集を開始しております。6月末現在の状況は、手話通訳は（募集300名）403名、手書き要約筆記は（募集300名）115名、パソコン要約筆記（募集100名）が25名です。

パソコン要約筆記、手書き要約筆記は募集期間を11月末まで延長いたしました。今後も県民からの募集を募るとともに、県内の大学や専門学校などに協力依頼をしていく予定です。

本年度は登録していただいた方々へ「情報支援ボランティア養成講座」を開催し、来県者をあたたかくおもてなしができるよう研修を進めています。また、大会に参加する選手が快適な環境のもとで競技に挑むことができるよう、案内・介助・誘導等を行う「選手団ボランティア」の養成講座を養成協力校7校で開講し、養成をしていきます。

施設整備については、20年度に策定いたしました「会場整備基本設計」に基づき21年度

は、ユニバーサルデザインに配慮した「会場整備実施設計」の策定を進めてまいります。

以上、ゆめ半島千葉国体及びゆめ半島千葉大会の準備状況についての報告といたします。

今後とも、会場地市町をはじめ、各競技団体等と一層の連携を図り、開催準備に万全を期してまいります。

以上で説明を終わります。

【質問等】

委員 千葉県民の方々が、この機会にもう少しスポーツとか国体に目を向けてくれたらいいと思います。そのためには、スポーツだけでなく、別のものをリンクさせる。例えば全国からたくさん方が来てあちらこちらで食事をされる。千葉県は農業が盛んで、いろいろなおいしいものたくさんあります。「テーブルフオーツ」というNPOさんがあるのですが、あるメニューを注文するとそこに20円分が加算されていて、発展途上国の子どもの給食に寄付されるしくみになっています。県内の協力してくれる企業や飲食店で「千葉国体・地産地消メニュー」などとして出せば、国体参加者のみならず県民のスポーツ無関係者の方の目にとまることできる。

千葉国体が全県の中でいち早く、そういう視点を取り入れて、スポーツを通した社会貢献を国体の事業として取り入れてやったらどうか。

また、全国各地から多くのチームが来られるので、それぞれのチームに、ボールや国体ウェアなどを寄付していただき、それをカンボジアやアフガニスタンなどに寄付したら、国際貢献を兼ねた一味違う千葉国体になるのではないかと。

事務局 今後の参考とさせていただきたいと思います。

委員 ボールやウェアの輸送経費はどうなるのか。

委員 送付してくれるNPOもあるが、どの県も国体後のボランティアの方々にやっていただく仕事や役割を探している。できればその方々に活躍してもらい、直接送った方がよいと思います。

委員 千葉国体と千葉大会の時に、競技をされた方のビデオを撮られたら、記念になってよいと思うのですがどうですか。

事務局 千葉テレビ等をお願いをして、大会の記録は撮る予定になっております。

今現在、いろいろ検討しているところです。

以上